電源遮断器
型式　A001J

お客様組立て
取り付け商品

家庭用 スイッチ断(ダン)ボールⅢ

取扱説明書

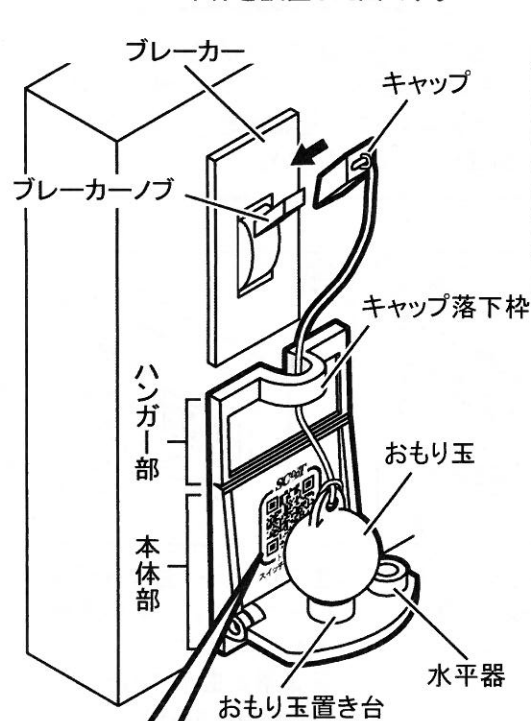
この度は家庭用電源遮断器「スイッチ断ボールⅢ」をお買い上げいただきありがとうございます。
この製品は震度5以上(調整可能)の地震が発生した際におもり玉の落下を利用し家庭用のブレーカーを自動的に遮断し、電力復旧後の通電火災を防ぐ装置です。ご利用の前にこの説明書をよく読んで、正しく安全にお使いください。

●配電盤の形状や、真下に棚があるなど、おもり玉の落下スペースが十分に無い場合などは設置できない場合があります。詳しくは当社までご連絡ください。
●貼り付ける前にセロテープで仮止めして作動テストを行ってください。
一度貼り付けると貼り直しできません。

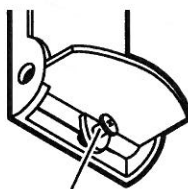
各部の名称・付属品

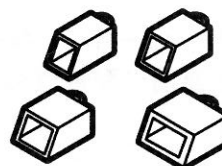
付属品をご確認ください。万が一不足している場合はご使用の前にお買い求めの販売店、もしくは当社にご連絡ください。

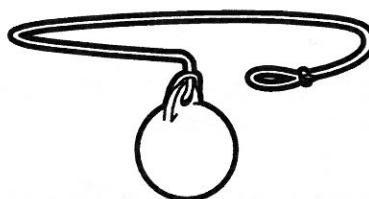
※ブレーカーに本体を設置した図です。

ブレーカー
キャップ
ブレーカーノブ
キャップ落下枠
ハンガー部
本体部
おもり玉
水平器
おもり玉置き台

スマホやタブレットでこのQRコードをスキャンすると、いつでも取扱説明書や安全上の情報を確認できます。

本体裏側
両面テープ
貼り付ける前にセロテープで仮止めしてください。

本体下側

調整ネジ

キャップ(5種類)
ブレーカースイッチノブ形状に合わせて選んでください。

ひっかけ式キャップ
埋め込みタイプのブレーカーに使用します。

おもり玉

スイッチ穴通し(銅線)

震度調節用リング(小、大)

長いヒモ

QRコードリーダーのダウンロード(無料)はこちらから！
App Store・Google Play

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

●この説明書には下記のマークを付けています。
拡大損害が予想される事項には………　⚠
禁止行為には……………………………　🚫
特に良く読んで頂きたい事項には………　❗
●第三者に貸与される場合は、この説明書を必ず添付してください。
●この製品を安全にご使用していただけるご使用期間は10年です。
●この説明書は大切に保管してください。

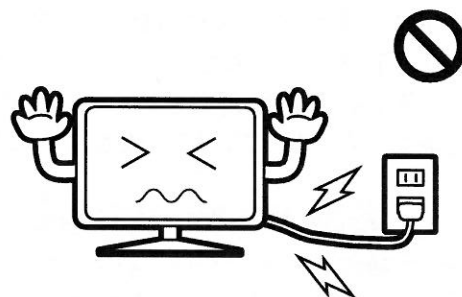
株式会社　エヌ・アイ・ピー

ご使用の前に…

警告 重大な事故の原因となります。

●生命維持装置等の医療機器が接続されている回線には使用しないでください。
●本体設置時は高所での作業となるので、転倒や転落に注意してください。

注意 ケガや器具損傷の原因となります。

●当装置が作動すると電源が遮断されるので、パソコン等の損傷の原因になります。
●おもり玉が足などに落下するとケガや付近のものを破損する原因となります。
●本書記載以外の用途では使用しないでください。

1.配電盤の確認

ブレーカーの位置やブレーカーカバーなどにより設置位置が異なりますので、設置前に配電盤の形状をよく確認してください。

配電盤の形状や、真下に棚があるなど、おもり玉の落下スペースが十分に無い場合などは設置できない場合があります。詳しくは当社までご連絡ださい。

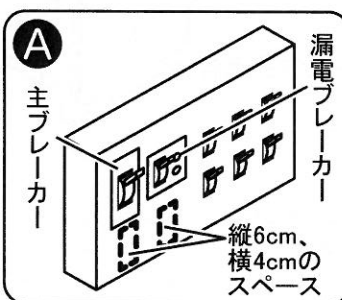
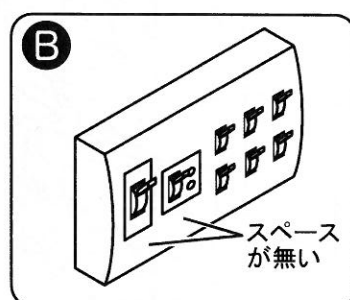
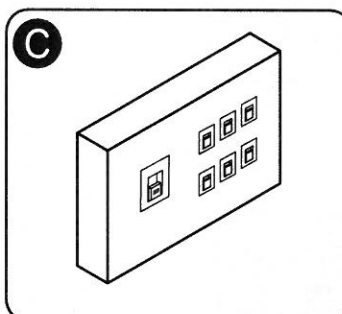
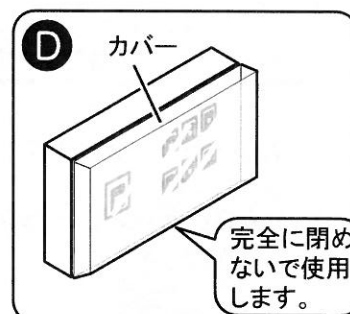
（1）設置可能な配電盤の形状

P.2の「3.設置方法」を良く読み、Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ いずれかの適切な場所へ設置してください。

Ⓐ 主ブレーカーや漏電ブレーカーの下に**縦6cm、横4cm以上**のスペースがある配電盤
↓
P.2（2）配電盤形状別の貼り付け場所 Ⓐ の場合へ

Ⓑ 表面が曲面になっている配電盤
↓
P.2（2）配電盤形状別の貼り付け場所 Ⓑ の場合へ

Ⓒ 埋め込み式ブレーカーの場合
↓
P.2（2）配電盤形状別の貼り付け場所 Ⓒ の場合へ

Ⓓ カバーがついている配電盤
↓
P.2（2）配電盤形状別の貼り付け場所 Ⓓ の場合へ

主ブレーカーおよび漏電ブレーカー下に縦6cm、横4cm以上のスペースがある

・主ブレーカーおよび漏電ブレーカー下に、本体を貼るスペースがない
・配電盤が曲面になっている（垂直に貼れない）

埋め込み式ブレーカーにも対応しています。

カバー付の配電盤は、蓋をロックしないで使用します。

（2）配電盤形状別の貼り付け場所

Ⓐの場合

主ブレーカーまたは漏電ブレーカーのどちらかの下に本体を貼り付けます。[図1]

Ⓑの場合

1.本体をスジにそって折ります。
2.裏面の両面テープごとハサミで切り分けます。[図2]
3.空いているスペースに本体部分を貼り付けます。
4.主ブレーカーまたは漏電ブレーカーのどちらかの下にハンガー部分を貼り付けます。[図3]

Ⓒの場合（スペースがある場合は図１参照）

1.図1のように十分な場所がない場合は、本体を切り分けます。[図2]
2.図3のように主ブレーカーの下にハンガー部分を貼り付けます。
3.主ブレーカーの下にスペースがある場合はブレーカーの下に、スペースがない場合は空いているスペースに本体部分を貼り付けてください。[図4-a]

Ⓓの場合

1.本体を切り分けます。[図2]
2.おもり玉のヒモを長いヒモに交換します。
3.カバーの中の主ブレーカーまたは漏電ブレーカーの下にハンガー部分を貼り付けます。[図4-b]

カバーは完全に閉めないでください。
ヒモがひっかかり、おもり玉が落ちません。

2.動作震度の設定

建物構造や地盤などを考慮して設定を決めてください。

設定①　震度5強以上

古い木造建物や傾いたり傷んだりしている建物は置き台に直接おもり玉を設置し使用します。

設定②　震度6強以上

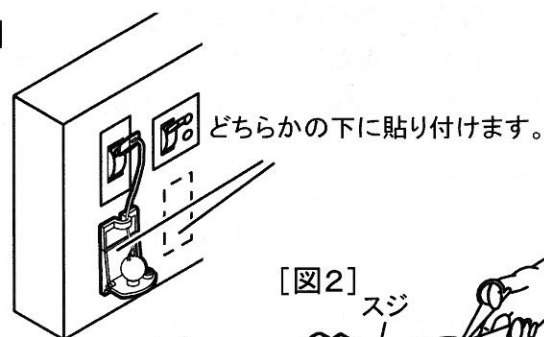
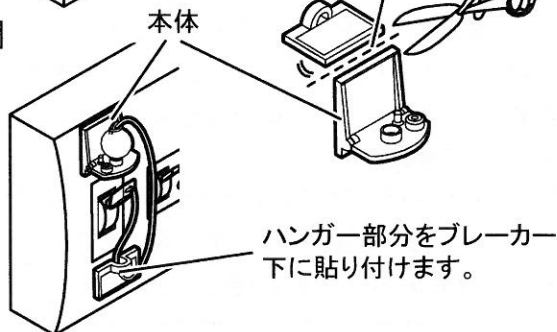
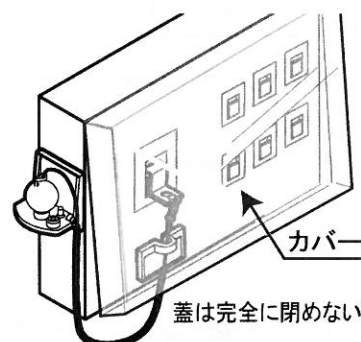
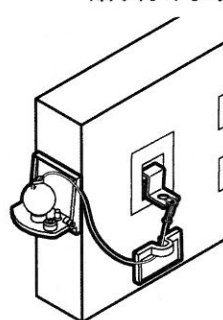
1981年以前の建築基準法に則った建物は置き台に震度調整用リング（小）をはめ込みます。

設定③　震度7以上

新建築基準法に則った建物は置き台に震度調整用リング（小）をはめ、その上からさらにリング（大）をかぶせます。

3.設置方法

1.配電盤の設置する位置に本体を合わせます。
2.セロテープで仮止めをします。
3.本体の水平器の泡が中心にくるように調節します。[図5]
配電盤の表面が曲面になっている場合は調整ネジとロックネジでおもり置き台の角度を調節します。（次ページ[図6]）
4.本体裏側にある両面テープをはがし、配電盤に貼り付けます。

●貼り付けの前にブレーカーの貼り付ける面を乾いた布でよく拭いてほこりを取ってください。
●貼り付ける前にセロテープで仮止めしてください。
一度貼り付けると、再び貼り付けることはできません。

[図4-a] 空いているスペースに本体部分を貼り付けます。　[図4-b]

設定①　震度5強以上

おもり玉をそのまま載せます。

設定②　震度6強以上

リング（小）をつけます。

設定③　震度7以上

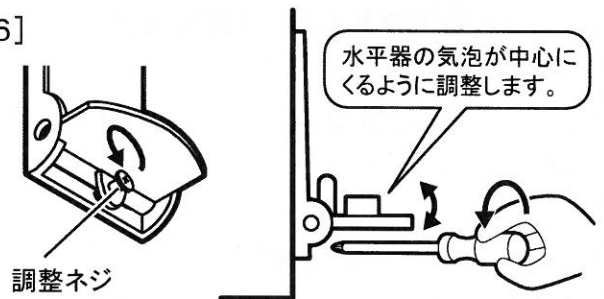
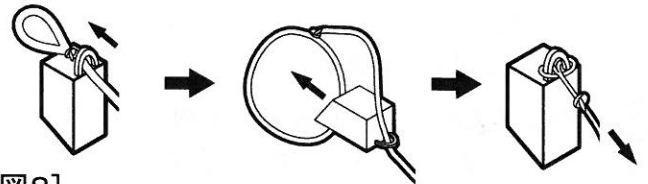
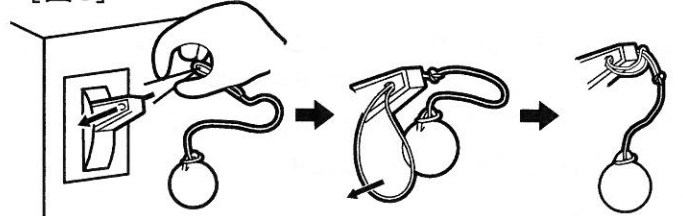
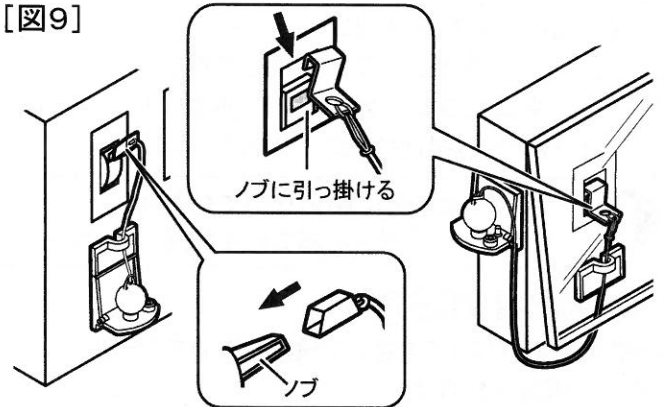
リング（小）にさらにリング（大）をかぶせます。

[図5]

水平器

気泡が中心にくるように本体の角度を調整します。

【おもり置き台の角度調整方法】［図6］

(1) 本体下部の調整ネジをドライバーで回します。
(2) 水平器の気泡が中心にくるように調節します。

4.おもり玉の設置

1.おもり玉は本体貼り付け後、一晩放置してから設置してください。
2.おもり玉を置き台の上に設置します。
3.おもり玉のヒモをキャップ落下枠に通します。
4.設置したいブレーカーノブにはまるキャップを選びます。
埋め込み式タイプのブレーカーの場合は、ひっかけ式キャップを使用してください。
5.キャップとヒモを双コブ結びで結びます。［図7］
(1) キャップのヒモ通し穴にヒモを通します。
(2) ヒモの輪の中にキャップをくぐらせます。

4つのキャップがどれも合わない場合、スイッチ穴通しを使い、直接ブレーカーノブにヒモを結んでください。［図8］

6.キャップを正しい向きでブレーカーノブにかぶせます。［図9］
以上で設置終了です。

5.動作確認

電源が遮断されても問題ないことを確認してから、動作テストを行ってください。

1.おもり玉を指ではじいて落とし、ブレーカーがその重みで遮断されることを確認してください。
2.ブレーカーが遮断されない場合は、加速度を増すため付属の長いヒモに取り替えて、再度テストを行ってください。

6.お手入れ方法と日常の確認

● 汚れはから拭きするか、うすめた中性洗剤を柔らかい布に付けて汚れを拭き取ってください。
● 当装置を付けているブレーカー回線に、パソコンや医療器具が接続されていないことを日常的に確認してください。

7.トラブルシューティング

Q:おもりを落としてもブレーカーが遮断されない。
A:加速度を増やすため付属の長いヒモに取り替えてください。

保証規定

この保証規定は、本書記載に基づく正常な使用において、故障や欠陥が発生した場合にお買い上げ後1年以内であれば、下記の免責事項をのぞき無償にて修理または交換をお約束するものです。

①本書記載以外の使用や禁止行為等に起因するもの。
②火災・地震・水害等の天変地異ならびに事故等外部要因に起因するもの。
③お買い上げ後の落下・輸送による故障や損傷。
④両面テープなど消耗品。

仕様

品　名：スイッチ断ボールⅢ
用　途：地震の際に電源を遮断し、通電火災を防ぐ装置
材　質：本体・キャップ部品　ABS樹脂
　　　　おもり玉　鉄球にABS樹脂被服
寸　法：奥行き28×幅34×高さ58（mm）
重　量：本体約60g
　　　　おもり玉約45g
付属品：ひも、スイッチ穴通し、震度調節用リング大小各1個
期待寿命：10年
原産国：日本

製造発売元

株式会社　エヌ・アイ・ピー
〒114−0015　東京都北区中里1−20−1塚本ビル1F
電話：03−3824−6220　FAX：03−5834−8392
URL：http://www.bbk-nip.jp/　e-mail：t-uono@nip.jp